

## Advanced OSCE 実施報告

平成 28 年 7 月 2 日（土）に、医学部 6 年生 110 名を対象に、Advanced OSCE を行いました。

学生は、鑑別診断能力を図る 14 分課題を 4 種類（A, B, C, D）のうち二つ、臨床実技 5 分課題二つ（e, f）を受験しました。二人の評価者による 6 段階評価の平均を最終成績としました。

	A 課題	B 課題	C 課題	D 課題	e 課題	f 課題
平均点	4.2	4.3	4.0	4.1	4.5	3.8

OSCE 終了後、評価者及び患者役を担当した教員 42 人と学生 110 人から BSL に関するアンケートを行い、BSL の課題が以下のように浮かび上がりました。

【OSCE 参加教員アンケート：回答数 61】

問. BSL 教育で変更したい内容はあるか： 全体の 45%が「ある」

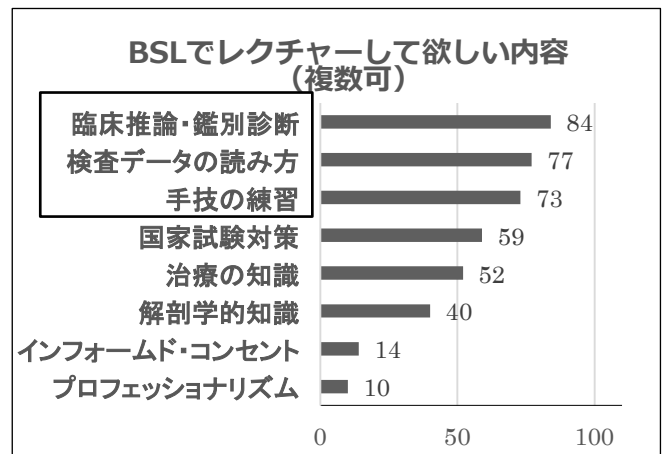
問. 変更したい内容は？

1. 鑑別診断を考えながらの診察（医療面接、複数科にまたがる病態の理解 など）
2. 検査手技の目的と意義 \*教員間で統一して教える必要性あり
3. 検査の読み方の「型」 陰性所見をとる必要性

【学生アンケート：回答数 110】

問. BSL でレクチャーして欲しい内容（複数可）：  
右図

教員が BSL 教育において強化したいと考える内容と学生が求める内容のトップ3が一致しました。これらが、本学の BSL におけるウイークポイントと考えられます。



### 【今後の方針】

1. BSL 前の鑑別診断能力の向上 → BSL 前の症候論の授業に、実際の症例提示と豆テストを導入
2. 基本的臨床手技の教え方の見直し・統一化・教員間/教員学生間の共有  
→ コアカリで定める項目について、各科で分担してまとめて配布。自己・教員評価にも使用。
3. 検査所見読影の基本型の確認・統一化・教員間/教員学生間の共有  
→ 各科で分担してまとめて配布。